

VIPO年間活動報告書 2010

ACTIVITY REPORT 2010 2010.4.1 → 2011.3.31



Visual Industry Promotion Organization
NPO法人 映像産業振興機構

2. 目次

VIPO 前理事長×理事長対談 (敬称略)

迫本淳一 [NPO法人 映像産業振興機構名誉理事 / 松竹株式会社代表取締役社長・弁護士]
 ×
 松谷孝征 [NPO法人 映像産業振興機構理事長 / 株式会社手塚プロダクション代表取締役社長]

6. 政策検討委員会 2010年度

7. ndjc：若手映画作家育成プロジェクト

8. VIPO 人材育成基盤プログラム

シナリオアナリスト養成セミナー (2010年10月期)
 キャラクターメイキング&アナリスト
 養成セミナー (2010年10月期)
 シナリオアナリスト/キャラクターアナリスト
 認定結果発表 (2010年10月期)
 AFI (American Film Institute) への留学推薦者の斡旋

9. メディア・映像業界就職セミナー

VIPO インターンシップ

コ・フェスタPAO

10. JAPAN 国際コンテンツフェスティバル

オフィシャルイベント
 グランドセレモニー
 劇的3時間SHOW —5人の国際映画監督が語る—

11. 海外展開

コ・フェスタ in 上海
 カンヌ映画祭2010
 第11回 JAPAN EXPO
 HYPER JAPAN London
 Asia Content&Entertainment Fair(ACE Fair)2010
 調査事業 ブラジル
 第15回釜山国際映画祭「ジャパンレセプション」

12. コンテンツ・ポータルサイト運営協議会

日韓ビジネスキャンパス2010

VIPO 京都 フィルムコミッション推進事業
 京都映画映像企画市
 韓国調査事業
 香港フィルムマーケット出展
 京都太秦クリエーター支援拠点 (UZU)
 シナリオアナリスト基礎講座

13. 平成22年度幹事理事会・理事会

平成22年度通常総会

平成22年度幹事理事会・理事会開催

平成22年度事業報告 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

14. VIPO INTERVIEW DIGEST

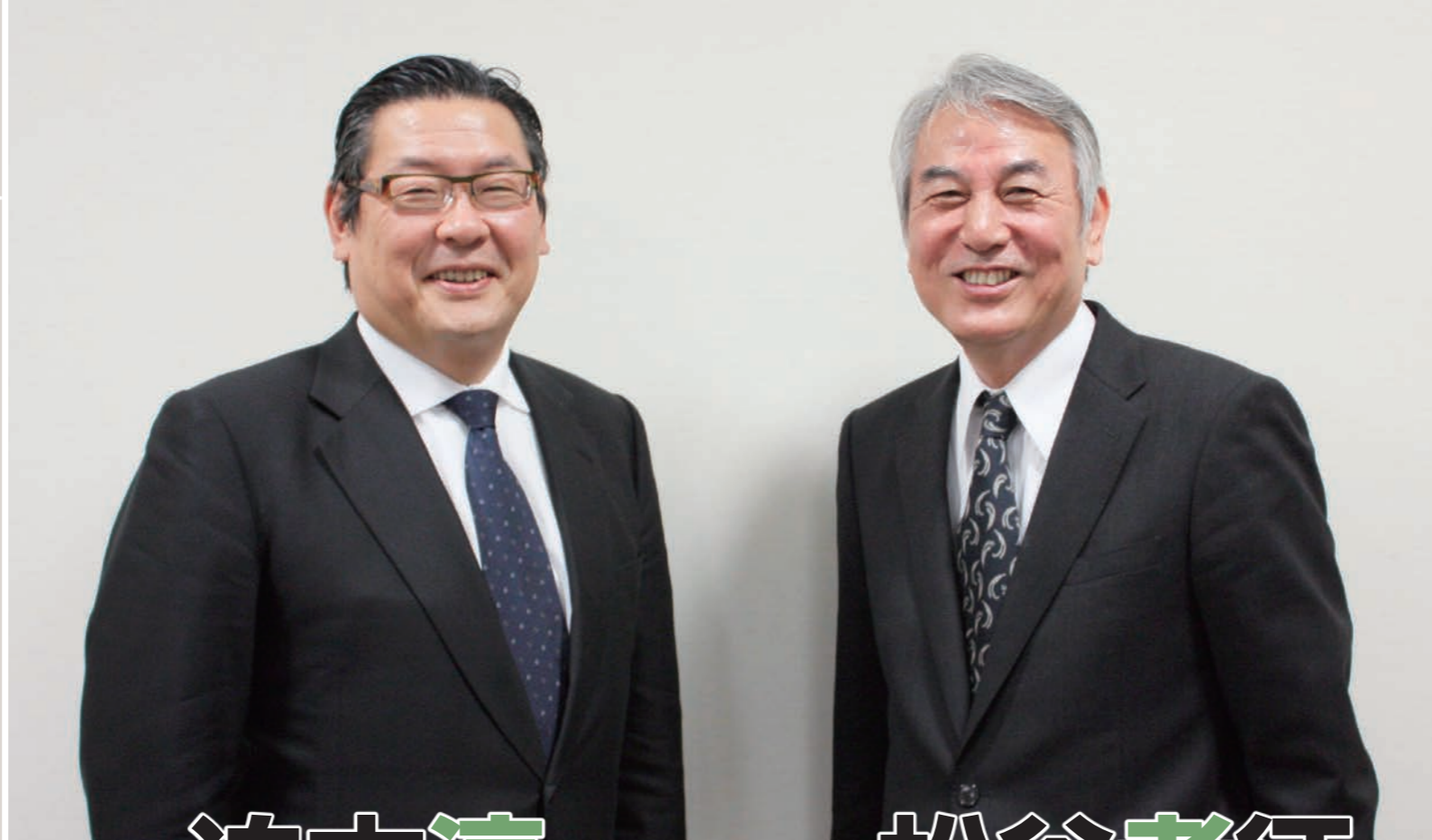
韓国コンテンツ振興院 (KOCCA) 日本事務所 **金泳徳** 所長
 Asia Content&Entertainment Fair **成眞淑** 事務局長
 光州情報・文化産業振興院 (GITCT) **李相吉** 院長
 光州情報・文化産業振興院 (GITCT) IT/CT 事業部事業部主任 **金恩鈴** 氏
 韓国文化産業専門大学院 教授 **金時範** 氏
 FIX Korea CEO **Inho Choi** 氏

15. VIPO 年間活動スケジュール (2010年度)

人材育成

市場開拓

その他



迫本淳一

(NPO法人 映像産業振興機構名誉理事)
 松竹株式会社代表取締役社長・弁護士

松谷孝征

(NPO法人 映像産業振興機構理事長)
 株式会社手塚プロダクション代表取締役社長 (敬称略)

VIPO前理事長×理事長対談

◆ 理事長としての任期・任務を振り返って

松谷：今日は貴重なお時間をありがとうございます。私が、VIPOの理事長に就任してから約1年経ちましたが映像文化産業界全般を網羅する組織としての難しさも感じております。迫本さんの5年間を振り返ってVIPOについてこんな風だったというのを今後の参考にさせて頂くためにもお聞かせ頂きたいのですが。

迫本：映像文化、コンテンツを産業として振興させようということをやったという発想はすごくいいです、が、果たしてできるのかと思ったところもありました。みなさんのご理解を得、何とか5年間、組織として活動できたということで、現名誉理事としても継続できたら、と思っております。

VIPOのすごくいい点は儲けるというのではなく、国にとって、業界にとって役に立つことをするという点で、そういう意味では精神衛生上よかったですよ(笑)。松谷さんは1年間を振り返っていかがでしょうか？

松谷：今回の地震のような事態にいつ何時陥るかわからないですし、VIPOに国からの応援の予算が激減するような状況になった場合も想定しなければいけないのではないかと考えています。ある程度独自でも映像産業振興のための形でVIPOも動き、活動を継続できるような道筋も考えないと所帯も大きくなっていますし、ただ会員の皆様に納得いただけるような活動でなくてははいけません。

迫本：恒常的な負担を軽くし、最低限度のメンバーで動けるような組織にしておくことも考えなければいけないと思います。

松谷：同感ですね。非営利とはいえ、こういう組織は人事面も含め、どうやったら維持し活動していけるか、VIPO会員や映像産業界発展のために何をどのようなサービスをできるかをいつも真剣に考えなければいけませんよね。

◆ 事業の方向性

松谷：理事長としての5年間で、この事業は継続したい、膨らませたい、これはもう別の方向で、ということがあれば是非うかがいたいです。

迫本：我々映像産業は人と人とのつながりで、チームプレーで作ってきています、何でも始めたら極力継続するべきというのは基本的にあると思います。文化庁の受託事業である若手映画作家育成事業(ndjc)、経済産業省の受託事業である JAPAN 国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)など、出合いの場を作っている中から成果がでてくるというものは継続が大事ですが、成果というのは間接的にじわじわくるというものなので長く続けるということがやはり大事です。

もう1つは映像産業への国の関わり方が、他の国に比べ日本は立ち遅れているのではないかと感じます。アジア諸国でも、映像が国外にでていくことによって国益になるということを知っています。

迫本淳一 (さこもとじゅんいち)

1953年4月2日生まれ。1976年3月慶應義塾大学経済学部、1978年3月同大学法学部卒業、1997年9年UCLAロースクール 法学修士。

1978年4月 松竹映画劇場株式会社入社
 1991年4月 最高裁判所司法研修所 入所
 1993年4月 弁護士登録 (現任)
 1993年4月 三井安田法律事務所 入所
 1997年9月 ハーバード大学
 ロースクール客員研究員
 1998年4月 松竹株式会社 顧問
 1998年5月 同社 代表取締役副社長 就任
 2004年5月 同社 代表取締役社長 就任
 2004年12月 NPO法人 映像産業振興機構 (VIPO) 理事長 就任
 2010年6月 同機構名誉理事 就任



趣味：食べること、ゴルフ 愛読書：「ローマの物語 (塩野七生著)」
 好きな映画：「ローマの休日」「男はつらいよ」シリーズ、「ウェストサイド物語」「家族の肖像」

す。映像文化産業が国益になるというための活動をしていくというのもVIPOの重要な使命の1つです。VIPOではそのために分科会を作り、政策提言をできるようなベース作りをしました。

松谷：私は漫画とアニメーションの世界におりまして、映画でもしょうが大げさにいえば、「アンチ体制」というような作品が山ほどあって、国があまり応援しつづけない内容の作品もありました。そんな中で最近になり、国が応援してくれているのは非常にありがたいんですが、映像は文化でもあります。単なる手段や道具としては見てほしくないなと思うこともあります。しかし、国の応援によって日本発のアニメーションや映画で国際交流が進展できればそれに越したことはありません。どのような支援が市場を拡大できるか、次の良質な作品を生み出せるか、官民一体となり見つけていければいいな、と思っています。国の応援に応えたいとは思いますが、僕らのプロダクションはみんな弱小ですから、体力的にもつか、成果がないと厳しい部分もあります。小さなプロダクションにとっては、例えば国の支援でプース代はもちます、といっても渡航費さえ厳しい場合もあるんです。何かイベントをやれ、という応援も有難いですが、別の形があるのではないかと思います。

迫本：全くその通りです、VIPOの事業でもコ・フェスタがあり、やらないよりはやった方が絶対いいと思います。しかし、それが業界の負担になるような形で残されるのが一番つらいわけで、国がやります、と決めたわけですから、ここまでは支援してあとは自分たちでどうぞ、というのなら最初からやらない方がいいと思います。人との関係を作っていく、継続して人との関係を続けられる環境を作るといのが、日本の映像業界に対する最大の支援になると思うので、1つは国がまず映像事業というのは国家的戦略、産業になるということを知ること、2つ目は、1つを認識した上での事業に継続して助成するということを決めるということ、3つ目は継続したモノづくりができる形にしていくということ、この3点が重要だと思います。

映像産業の根源は、1番はおもしろいものを作ろうという民間の自助努力が基本であり、国に助成されるものではなく、どうやって自助努力していこうという点について活性化させるのが応援だと思います。自分たちでやっていくんだ、面白いものを作るんだ、世間をあっといわせるんだ、というところはマーケットのメカニズムに任せるべきであって、国がそれを続けられるように環境を整えるのが大事ではないでしょうか。



松谷孝征 (まつたにたかゆき)
 1944年9月24日生まれ。1967年3月中央大学法学部卒業。
 実業の日本社にて漫画誌編集者として手塚治虫番を担当、1973年手塚治虫マネージャーとして株式会社手塚プロダクション入社。
 1985年 同社代表取締役社長に就任 現在に至る
 2003年5月 有限責任中間法人日本動画協会 (現・一般社団法人日本動画協会) 理事長 就任 現同協会 上席理事
 2010年6月 NPO法人 映像産業振興機構 構理事 就任
 カラー版「鉄腕アトム」、劇場版アニメーション「火の鳥2772」、「ジャンブル大帝」等のプロデューサー

趣味：遊び全般 好きな作家：森鷗外、芥川龍之介、カミュ、ドストエフスキー 等
 好きな手塚治虫作品：「ブラックジャック」「火の鳥」「ブッダ」他、短編作品よく見ていたテレビ番組：「チロリン村とくみの木」「ジェスチャー」「スーパーマン」(オープニングの台詞をいえます)、「ジャンブル・ジム」「ハルは何でも知っている」 同映画：日活アクション映画、東映の時代劇ややくざ映画、東宝の駅前・社長シリーズ、「24の瞳」等子ども向け作品や松竹文芸路線、「男はつらいよ」シリーズ 好きな歌手：美空ひばり、島倉千代子、春日八郎等多数

◆ 人材育成

松谷：人材育成についてですが、技術的なカリキュラムは各学校がやっています。映画も一緒かもしれませんが、アニメ業界でも学校を修了したからといって即戦力になるとは限りません。現場にいて2年3年でようやく半人前になるかな、という感じです。その間、プロダクションはずっとお給料を払うわけですよね。人材育成も、経営状況がいろいろはできるけれども、常にそういうわけにいかないでしょうし、例えばの話ですが、そういうところの支援の仕方だとか、あるいは人材育成をプロダクションがやっているんだしたら、規模の大きい作品を毎年作らせるとかしてほしいですね。また、今一部の海外の国では日本の映像作品が正規に放送される時間が減っているの、国主導でテレビ枠を買い取るということも考えてみるとか。

一定の金額で何か制作しなさい、ということではなくて、シナリオで絶対いいな、というのがあれば映像化するとか、コンテストで億単位のプロジェクトで映像を制作できる現場に新人が参加してということで、現場での人材育成ができますし。有能な人材が発掘できるかもしれません。

迫本：OJTで人材が発掘されやすいという発想ですよ、やるならば継続していくことが大事ですよ。

松谷：助成してもらったお金を使い切ることにならないよう、収入の得られるようなきちんとした作品を作り次につなげていくことも考えられます

僕がVIPOで考えていきたいのは子ども対象のもの、人材育成で何かお金が入るのであれば、子どもたちに映像文化というものを小さい頃から楽しく接することができる環境作りにあてたいですね。

迫本：子どもを対象にしていくのは、未来を感じる事業ですね。

◆ 国のサポート

松谷：例えばVIPOの本来の使命である映像産業の振興ということで必死になって考えたときに、ここに入っている会員のみなさんの利害が相対峙する場合がでてこないですかね？

迫本：大きな会社にも小さな会社にも公平ということで制度に貢献していく方がいいのではないかと思います。

今VIPOの分科会(※)で研究してもらっているところですが、

リスクを分散するためにも利益がでた時の税金をでていないときに割り振られるように工夫するとか、損したときも含め通算して会計できるとか。

松谷：会社独自で作れる場合もありますが、作ると製作費がそのままその時点では資産に残るので、制作費で使った時にそのお金を損金でおとすことができるとか。本当にたまたま例えば1億円浮いたのに使わないでよくとそのまま税金の対象になってしまうというのも弱小プロダクションにとってつらいですね。

迫本：寄付することにより税金をとられるというのは難しい点もありますので欧米並みに寄付したい場合には税務上の控除が認められるとかいう形にするだけでも随分違うと思いますね。

松谷：確かに税制を見直して頂くというのが必要かもしれませんが、日本の場合、税制をかえるというのは非常に難しいだろうけど、映像文化業界への応援のためにも取り組んでいきたいですね。

迫本：規模の大小に関わらず、制度として公平であれば国がサポートする体制は実現できると思います。これが実現できるだけでもVIPOが解散してもいいくらい、すばらしい成果だと思うので(笑)。コンテンツ、映像産業に関わるすべての個人と事業主にとって、メリットがあるのではないかと思いますね。

迫本：国には、映像文化産業の支援が日本にとって得だということを認識し、民間のいいものを作る、面白いものを作る、作り続けていける土壌作りを応援するというこの2つに1番力を入れてもらえればと思います。税制や法律を変えるといった場合、国にとってプラスになるんだ、という認識が前提にないとできないと思うので、経団連や業界、団体などと連携をとりつつ広く知らしめることができればいいのではないのでしょうか。

◆ 海外展開

松谷：海外政策というか海外に日本の映像・コンテンツを売ろうとしているわけですけど、国に動いてもらわないと環境を変えるために時間がとてもかかるような国もあります。具体的にそのような国とどんな交流を図っていくか、官民力を合せて市場を広げる努力をすることが必要です。意味なく単にイベントが行われるような形だけで終わらないようにしないと。VIPOが目的を箇条書きにでもして核を決めて国にお願いをする、そんなこともしていくべきかと思えます。

迫本：国にやってほしいのは民間ではできないような国との交渉とか、中国とのことで著作権の問題、違法対策をきちんとしてもらうとか、です。他にも国の状況によってできる範囲のことをやってほしいですね。

松谷：我々映像産業に携わっている業界・業種だけでなく、映像が世界にはばたいていくというのは他業種・業界、日本全体にもプラスになる、ということを訴求していくことも必要ですね。

迫本：そうなんです！ アメリカ映画を世界中で見ってもらうことによってアメリカ人がどれほど得しているか、韓国のドラマ「冬ソナ」があたったことにより経済的にも国のステータス・印象的にもメリットを受けたことを考えると、映像・コンテンツは平和に、経済に、文化にも貢献することができるし、世界での人間関係において映像・コンテンツがどれほど日本を主張するのに必要かということを考えるのであれば、国全体の理解がもっとあっていいと思います。

松谷：そうですね、ものづくりがしやすい環境を、国が応援してくれるというのが一番、大きなことですよ。

迫本：環境作りを応援してもらったら、あとは我々が努力しなければならぬ、これだけ世界に活躍のフィールドがあるのでから一発あててやるぞ、というヤマツケのある奴がでてきておもしろいものを作っていくというのが基本だと思うんですよ。

松谷：VIPOの会員というのは映像関係に全然関係ない人たちも参加してくれています。映像で一発あたれば日本のイメージがらっと変わったりもするし、ロケしたところにもものすごく人がきてくれる可能性もあるだろうし、劇中に登場する日本の製品の宣伝にもなるし、VIPOの活動範囲にも理解が得られるのではないのでしょうか。

迫本：中国映画「非誠勿擾 狙った恋の落とし方」のヒットで、中国人がどれほど北海道にきたかを考えてみると、経済的にも潤おうし、北海道のイメージも上がりますからね。

迫本：関西を舞台にした映画のプロジェクトで、松竹は制作として関わっていった公開は中国でというのがあります。扱われている素材が日本に関するのなら、訴求効果があるのではないかと。関西に中国やアジアの人たちがきて活性化するとすると、地元の産業にもプラスになるわけじゃないかというわけです。

松谷：例えばパリで実施されているJAPAN EXPOが拡大傾向にあるのであれば、来年は映像産業に全然関係ない企業さんに参加してもらおう、例えば薬品会社、化粧品会社でもいい、映像とうまくつながって、一緒にブースをだしてもらえれば絶対におもしろい効果がありますよ、と。そういう仕掛けというか仕組みというか、考えればいいと思いますね。

迫本：我々がつらいのは効果がすぐには目に見えた形ででてこないという点です。ですからやっぱりやり続けなければいけない、続けることができる体制にしていくというのが本当に重要で、最初に松谷さんがいわれた、組織の維持はすごく重要だと思います。

松谷：受託して義務的に仕事をしているのではなく、楽しく仕事をしなければ。我々は人を楽しませる仕事をしているんですから。

迫本：活性化した産業に将来なる、ということを考えればすごい夢のある仕事だし、本当にすばらしい仕事ですからね。

松谷：だから僕はふざけたことをやれていたのではなくて、やっていた楽しいことであればきっと見返りも大きいと思うし、VIPOの役割はきちっと果たせると思うんですね。その辺を一生懸命メンバーで考えないといけないと思うんです。些細なアイデアでもみんななでだしあって、これおもしろいね、と思ったら、これだったらみんなVIPOの会員も賛同するでしょ、というような形に成長させていけばいいんです。

◆ 夢について

松谷：子どもの頃から何にも働かないとかのんびりしているとか、そういうのが好きなんです。何だって手塚治虫のマネージャーなんかずっとやっていたのかと(笑)。元気なうちにリタイアをして、海辺に椰子の木が並んで茂っているようなところに住んで、海に“ざぼん”と飛び込んで顔を洗う代わりにそれでおしまいと。あがったらご飯食べて、1日のんびり遊んで、山に行って、川に行って、そういうのが夢なんです。

迫本：僕は食べて寝て食べて寝ての生活を太りすぎで家から出られなくなることがないような程度まで(笑)。

冗談はさておき、日本のコンテンツ産業が活性化して世界にで



1982年にアメリカ留学時の友人と



慶應義塾大学の卒業式にて友人と

30代に手塚治虫氏とロサンゼルスでの講演会に出張した際。撮影は、サンフランシスコ在住の日本漫画評論家・作家・翻訳家で、マンガの翻訳と海外への普及に貢献し、旭日小綬章を受賞したフレデリック・ショット氏



高校の運動会に応援団長を務めた時

迫本淳一(上段) 松谷孝征(下段)

いくような状況になって日本人が全世界的フィールドで活躍して世界の文化に貢献できるような形になればそれは本当に素晴らしいことではないか、それだけのものがあるのではないかと考えています。特に歌舞伎をやっている、最近感じます。

「おくりびと」がアカデミー賞を取り、日本の文化が世界に貢献するような時代になってきたのではないかと思うんですね。ギリシャ・ローマ時代からの西洋文化は論理の文化で、1の次が2、2の次が3みたいな、だけど日本の文化は1と2の間にある余白を“ぼっ”とつかむようなもので質的に違います。ギリシャ・ローマの論理の文化はすばらしいし、法律制度の考えでも素晴らしい世界の財産だと思うんですが、限界もありますし、そこに日本の文化が貢献できる時代が来たのではないかという気がするんです。そういうことを考えると、世界的なフィールドでたくさん日本人が働いてもらえるようになればな、というのが夢ですね。

松谷：せっかくこういう業界にいるわけですから、この業界によって日本人の子どもたちというか、日本って日本人ってすばらしい、というのをせめて示してあげたい、あるいは学んでもらいたいですね。日本の国内で日本の誇りを認識したら、それを心にとっかりもって海外に発信していったら、海外の人たちも、みんな日本っていいな、となってくれば。

映像文化というのは影響力が高いわけで、いいものを作っていったら発信していく、それによって世界中の人が日本、日本人を理解してもらい、日本って素晴らしいね、と思う。世界に向かって堂々と正論をはいっていく、と。

迫本：日本って自分に対して今まで自虐的に評価することがあったと思いますが、今回の震災でみんなが本当に苦しい思いをしていると思います。原発の問題もあり閉塞感が精神的にみんなに漂っている状況にあると思っているんですけど、唯一よかったと思うことは、結構日本人が自分たちに誇りを取り戻した面があるのじゃないかと。日本人自体は結構いい人も含めて、素晴らしいのではないかな、ということもみんなで認識したんじゃないかな、という気がします。

松谷：今回の震災で、戦後65年間、右肩上がりで成長してきた経済、社会、もっともこの何年間かは停滞していましたが。被災者の皆様の救済が第一ですが、今改めて日本を見つめ直すという、私も含め日本人はそれぞれがいろいろな振り返りをしないといけないし、勉強もしないといけない、成長しないといけないんじゃないかと。精神的にひと回り大きくなった日本人にならないといけない、そして若い人たちがこの刺激を受け、すばらしい未来につながる映像を作ってくれるようになることを願っています。今こそ映像産業が期待されているのだと感じています。

(敬称略) ※分科会についてはP6 VIPO政策検討委員会ページに詳細を掲載 (2011年4月取材) (取材・文 広報 小林真名実)

政策検討委員会 2010年度

政策検討委員会は、幹事理事会の諮問機関として、長期的視点から映像産業振興の方向性を探るものである。2010年度は、当機構の使命（市場開拓と人材育成）に基づき、本会、税務会計分科会、ビジネス・インキュベーション分科会という体制で、検討を重ねてきた。特に税務会計分科会は、社会的に公平な振興を目指すために制度論から検討するものであり、中間報告として、下記のような着眼点が提示された。

本会

2010年度における本会の活動は、下記の二つの分科会での討議を踏まえつつ、より幅広い見地から映像産業のあり方を検討してきた。2010年度のなかで議論されたことのひとつに、長く官民各所での議論が続けられている海外展開に関して、今、当機構ができること、映像産業における権利処理の実務上の認識の程度の現状、などが議論された。ただし東日本大震災の影響を受けて、2011年度以降の海外展開のあり方については再検討を要するものと考えられ、引き続きの議論を重ねていく予定である。

税務会計分科会

座長：柳澤義一

喫緊の課題

- ①人材育成に対する投資促進税制等
 - (a).コンテンツ製作にかかる人件費、人材の育成にかかる費用、地域振興に繋がる費用を含む等一定の要件を満たす作品(コンテンツ)について税額控除ができる制度の要望。
 - (b).産学連携の人材育成を目的としたコンテンツ製作にかかわる事業(以下、産学連携事業)への優遇税制を要望。
- ②海外の著作物等の使用料や芸能人等の役務提供に関する源泉所得税の引き下げと減免税手続きの簡素化
- ③製作委員会への参加する企業等の制限の撤廃、また、一定の期間を経過した製作委員会方式作品の著作権の一元化を促すことの可否
- ④個人が映像製作・ロケ・ロケ地整備に寄付した際の寄付金制度適用・拡充
- ⑤ロケ地並びにそこに設立される映像製作関連施設等を維持するために、それらにかかる固定資産税、償却資産税の減免
- ⑥作品からの収益(損金)を次の作品に投資する際の課税繰り延べ制度の新設
- ⑦IFRS(国際財務報告基準)導入に伴う映像産業に影響の大きい会計処理の研究(売上の認識、映像資産の償却等)ならびにIFRS導入に伴って税務上の扱いが不利にならないように制度の整備を要望

今から議論し2~3年で方向性を出さなければならない課題

- ⑧国内外の映像製作会社の地方のロケ誘致のための税制控除の新設

将来への問題提起

- ⑨産業空洞化への対策、国内に「ものづくり」の基盤を残し発展させる方策の研究
- ⑩コンテンツ製作資金を広く国内外から幅広く集めるための制度研究

ビジネス・インキュベーション分科会

座長：白川洋次郎

分科会の趣旨

- (ア)映像産業振興のための人材育成(特に各分野のビジネスプロデューサーの育成)を支援すること
- (イ)映像産業振興のための事業開発の芽を生み出すこと。

人材育成において、表現に関する最新技術や情報の理解などの研鑽の必要性も言うまでもないが、実務に触れる機会の拡大と、映像作品やコンテンツ商品が世の中を豊かにし、楽しくしていくことを知ることも、併せて重要である。しかし現場の体験やビジネスの実務情報を広く伝授することは、なかなか難しい活動でもある。だからこそ、この部分に注力していくことが本分科会の課題となった。

2011年度活動内容と今後

高等教育機関での実施を想定した、ゼミや集中講義など、ある一定の期間内に限定して実施できるエクステンション・カリキュラム(教育プログラム)の開発を行う。内容は、今まで専門外であると思われた経済・経営・商、法、文学、語学や理工系の学部、学科でも採用してもらえるものを目標とする。併せてこのパッケージを使う教育職員にも指導しやすく扱いやすい様式、かつ彼ら自身でカスタマイズもできる汎用性のあるものを目指す。簡単に導入できる程度のライトなボリュームであるけれども、受講する学生たちにとって、映像作品をつくる実感とそれをビジネスとして扱っていく楽しみを感じてもらえる内容作りとすることは核心として置く。

今後の活動へのお願い

2011年度においても、本分科会活動を進めていく予定です。カリキュラム作りにはなお内容の精査が必要です。またカメラなどの撮影機材やPCとその周辺機器、通信環境、ソフトウェアも必要です。これらについて、関係各社の皆様のご協力をぜひ賜りたいと思っております。そして、このカリキュラムの実験授業を行うために、学校関係者の方々でご関心ある方々に何卒、ゼミや集中講義などの場をいただければと存じます。

PERSONNEL TRAINING

人材育成

映像文化コンテンツの国際展開を促進し、ビジネス展開に精通した人材を育成することを目的に、学生からコンテンツ業界関係の社会人をサポートすべく、就職、制作に関連した各種セミナー、短編映画製作など幅広い活動を実施している。

ndjc：若手映画作家育成プロジェクト

このプロジェクトは、文化庁の委託を受けて2006年度よりスタートしたもので、優れた若手映画作家を対象に、本格的な映像制作技術と作家性を磨くために必要な知識や技術を継承するためのワークショップや製作実地研修を実施すると同時に、作品発表の場を提供することで、次代を担う長編映画監督の発掘と育成を目指している。

今年度は、応募者の中から14作家がワークショップに参加。さらにその中から5作家が、最終課題である製作実地研修に参加し、シナリオ開発や35ミリフィルムでの撮影を必須とした短編映画制作を行った。その後各地で完成作品の合評上映会を開催し、多方面の方々から講評をいただいた。これまでに完成した作品と併せて、今後も引き続き発表機会を提供していく。



ndjc公式サイト
<http://www.vipo-ndjc.jp>



●ワークショップ



●製作実地研修



●合評上映会・講評会

ndjc2010実施概要

- 作家の公募：2010年6月1日(火)～7月2日(金)
すでに相応の映像製作実績と評価を有する若手映画作家を対象に、映画関係団体等からの推薦を受付
- ワークショップ：2010年8月7日(土)～8月21日(土)
一定の条件の下で、共通のテーマに沿った完成尺5分以内の作品を制作
- 製作実地研修：2010年9月～2011年1月
35ミリフィルム撮影による25分以上30分以内の劇映画作品を制作
- 合評上映会・講評会：2011年2月～3月
2011年2月21日(月) 東京会場(新宿バルト9)
プロジェクト検討委員による講評会
2011年2月25日(金) 脚本指導講師による講評会
2011年2月28日(月) 大阪会場(シネ・ヌーヴォ)
2011年3月15日(火) 東京会場②(シネマメディアージュ)
※震災の影響で中止
2011年3月17日(木) 沖縄会場(沖縄県立博物館・美術館)

これまでの製作実地研修参加作家と完成作品

ndjc 2010



高橋康進
『曇天クラッシュ』



藤村享平
『逆転のシンデレラ』



松永大司
『おとこのこ』



三宅伸行
『RAFT』



森英人
『動物の狩り方』

ndjc 2009

- 浅野晋康 『きみは僕の未来』
- 金井純一 『ペダルの行方』
- 清水艶 『ホールイン・ワンダーランド』
- 岨手由貴子 『アンダーウェア・アフェア』
- 遠山浩司 『そぼろごはん』

ndjc 2008

- 熊谷まどか 『嘘つき女の明けぬ夜明け』
- 田中智章 『花になる』
- 中野量太 『琥珀色のキラキラ』
- 吉井和之 『くだん』
- 和島香太郎 『第三の肌』

ndjc 2007

- 郡司掛雅之 『天国のバス』
- 児玉和土 『さよなら、ジョージ・アダムスキー』
- タテナイケンタ 『直下型の女』
- 平林勇 『BABIN』
- 山口智 『UFO食堂』

ndjc 2006

- 岡太地 『屋根の上の赤い女』
- 児玉徹郎 『ヒトヲモウ』
- 佐藤克則 『trash words』
- 真田幹也 『Life Cycles』
- 中尾浩之 『Line』
- 野口照夫 『FLYING BABY』
- 村松正浩 『けもののがにげる』
- 柳川薫平 『さちとチコ』

VIPO人材育成基盤プログラム

VIPOでは2008年4月より「政策検討委員会 人材育成分科会」を設置し、将来の人材を育成することを目的に東京工科大学金子満教授と共同開発した「人材育成基盤プログラム」を2009年度より実施。本年度は現在コンテンツ業界で働いている方々を対象とし「第2回シナリオアナリスト養成セミナー(2010年10月期)」と「キャラクターメイキング&アナリスト養成セミナー(2010年10月期)」を開催した。



「シナリオアナリスト養成セミナー」(2010年10月期)

本セミナーはストーリー性を持つ全てのエンターテインメントコンテンツ制作の指示書としてのシナリオを、市場性の観点から理論的に分析・評価することのできる人材の育成を目的としたもので、昨年に引き続き実施された。シナリオの分析・評価はコンテンツ業界においても各分野で経験知としての多くの蓄積があるが、その体系化と共有化は今後の課題と言える。本年は主に理論を中心とした昨年のセミナーの内容に加え、現役の脚本家を講師に迎え、現場のノウハウを加え具体的事例を数多く紹介する形式で開催。客観的視点に基づくシナリオの分析・評価能力の向上を目指す、現在コンテンツ業界で働いている11名の参加があった。

開催日時: [プレセミナー] 2010年9月30日 ①10月7日 ②10月14日
③10月21日 ④11月4日 ⑤11月11日 ⑥11月18日
[課題相談会] 12月2日(全て木曜日)
会場: 文京学院大学本郷キャンパス(東京都文京区) 主催: VIPO
主任講師: 沼田やすひる(シナリオアナリスト) 監修: 金子満教授(東京工科大学大学院)
受講料: 一般60,000円 VIPO会員企業・団体30,000円

「キャラクターメイキング&アナリスト養成セミナー」(2010年10月期)

本セミナーはキャラクターをシナリオと同じく、映像コンテンツの重要な要素と位置付け、キャラクターや俳優のキャスティングが的を得たものであるかどうかを判断する為に、今までに東京工大にて研究されている理論的分析と実証研究を基本にして、デジタル時代に相応しい新しい手法で活用していくというものである。各社それぞれ出自の異なる受講生が、プロデューサーの視点から、デッサン等の実習も踏まえて、キャラクターの創造ならびに分析方法を学んだ。またこのメソッドは引き続き、東京工大にて研究が進められるが、さらなる分析手法の発展形に今後も期待し、次回のセミナーに導入したいと考えている。コンテンツ業界関係者を中心に17名の参加があった。

開催日時: ①2010年10月7日 ②10月14日 ③10月21日 ④11月4日
⑤11月11日 ⑥11月18日(全て木曜日)
会場: 文京学院大学 本郷キャンパス 主催: VIPO
講師: 金子満教授、近藤邦雄教授(共に東京工科大学大学院)
受講料: 一般60,000円 VIPO会員企業・団体30,000円

「シナリオアナリスト」「キャラクターアナリスト」(2010年10月期) 認定結果発表



セミナーを履修の上、所定の課題を提出していただいた方々を対象に審査の結果、以下の「シナリオアナリスト」7名、「キャラクターアナリスト」6名の方々をVIPOによるアナリストに認定、認定式を開催し、VIPO松谷理事長より認定証を授与した。

【認定者(氏名50音順)】

- シナリオアナリスト
- 株式会社電通 コミュニケーションデザインセンター 五十嵐 真志 様
 - 茂田オフィス 伊藤 美咲 様
 - 松竹株式会社 映像統括部映像戦略室 落合 香里 様
 - 松竹株式会社 映像調整部邦画調整室 住田 節子 様
 - 東宝株式会社 総務部 羽成 一様
 - 公益財団法人ユニ・ジャパン 広報宣伝グループ 福田 勝 様
 - 20世紀フォックスホームエンターテインメントジャパン株式会社 増田 英明 様

- キャラクターアナリスト
- 松竹株式会社 映像統括部映像戦略室 宇高 武志 様
 - 株式会社角川書店 映画企画局企画管理部 大杉 真美 様
 - 株式会社デジタルスケープ パウハウスエンタテインメントグループ 落合 毅 様
 - 松竹株式会社 事業部 加藤 憲一 様
 - 株式会社トムス・エンタテインメント 第1映像製作部 小林 弘明 様
 - 東映株式会社 企画製作部 中尾 亜由子 様

●シナリオアナリスト認定式
開催日時: 2011年4月7日(木) 会場: 銀座フェニックスプラザ3F 第5会議室

AFI (American Film Institute) への留学推薦者の斡旋 AFI日本語公式HP「AFI.com × VIPO」完成

VIPOとAFI Conservatory (コンサバトリー: 専門職大学院に相当) は、2006年以来友好的な関係を続けている。これまで東京でのセミナーの開催やコンサバトリーへの日本人留学生の推薦などを実施。2010年度には、最終的に1名を推薦した。今までのVIPO推薦者には、AFIの判断により、依田スカラシップが提供されてきている。また、AFIとVIPOの提携関係により、AFI初めての日本語での公式ページ「AFI.com × VIPO」が完成。AFIの歴史、コンサバトリーなどの案内に加え、日本人向けにVIPO推薦の学生(フェロー)によるレポートを掲載している。



AFI.com × VIPO
<http://www.vipo.or.jp/afi/>

メディア・映像業界就職セミナー



本セミナーは2006年度より2010年度で5年目を迎え、2010年9月26日(日)、10月9日(土)、10月10日(日)に2012年3月卒業予定の、映画、テレビ、音楽、アニメ、ゲーム、広告・CMの各業界への就職を目指す大学生・大学院生を対象に開催した。

対象者にメディア・映像業界をより深く理解し、誤解のない企業選びの一助となることを目的としている。2010年の参加学生数は約3,700名と年々拡大している。セミナーの内容は、業界の人材ニーズ、業界別テーマセミナー、各社採用方針のプレゼンテーション、質疑応答に加えVIPO会員企業やメディア・コンテンツ業界企業の採用パンフレット配布などを行った。

■各業界info

- ◎テレビ業界 2010年9月26日(日) 参加学生数 約600名
参加企業: NHK、テレビ朝日、テレビ東京、日本テレビ、フジテレビ、WOWOW、ATP(社団法人全日本テレビ番組製作社連盟)
- ◎音楽業界 2010年10月9日(土) 参加学生数 約750名
参加企業: エイベックス・グループ、ソニーミュージックグループ、タワーレコード、ポニーキャニオン
- ◎映画業界 2010年10月9日(土) 参加学生数 約1,000名
参加企業: 角川映画、松竹、東映、東宝、日活
- ◎アニメ・ゲーム業界 2010年10月10日(日) 参加学生数 約550名
参加企業: ソニー・コンピュータエンタテインメント、JOGA(一般社団法人日本オンラインゲーム協会)、キュー・テック(グラフィニカ)、ティー・オーエンタテインメント、プロダクション・アイジー、フロントメディア、A-1 Pictures、AJA(一般社団法人日本動画協会)
- ◎広告・CM業界 2010年10月10日(日) 参加学生数 約800名
参加企業: アサツーDK、電通、博報堂、博報堂プロダクツ
主催: VIPO

VIPOインターンシップ

「映像業界での生きた労働体験を求める学生・学校」と「人材育成に意欲があり、多くの映像作品を生み出している制作者・企業」を結び取り組みとして、コンテンツ企業にインターン希望学生をVIPOが仲介する形式で実施。参加学生にコンテンツの制作・配給の現場を実体験してもらい、職能体験だけではなくプロデューサー育成の観点からも、将来に生かしてもらうことを目的としている。

コ・フェスタPAO

「コ・フェスタPAO」とは、国内外で活躍する10人のトップクリエイターが、次世代のクリエイターを発掘・育成し、映像制作・発信をする事業。トークショー、ワークショップ、展示等を通じて彼らの作品を披露。若者たちの情熱的(Passionate)で魅力的(Attractive)、かつ独創的(Original)な新発想を生み出すことを目指し、20本以上の映像作品を制作した。

開催期間: 2010年10月~2011年3月
会場: 東京ミッドタウン(ホールA・B、21_21DESIGN SIGHT 他)
主催: 経済産業省、VIPO

●佐藤雅彦PAO

開催日: 2010年10月20日(水)
会場: 21_21 DESIGN SIGHT 他
内容: 佐藤雅彦氏によるトークイベント「『新しい映像の作り方』の作り方」と講義を開催



●三宅一生PAO

開催日: 2010年12月7日(火)
会場: 21_21 DESIGN SIGHT
内容: 三宅一生氏によるトークイベント「映像とプロダクトの境界線」[発想の現実化] 開催



●宮本茂PAO

開催日: 2011年1月19日(水)
会場: 東京ミッドタウンホールB
内容: 宮本茂氏と劇団「ヨーロッパ企画」による「ものを作らなソノヤと思わへん?」開催



●武部聡志PAO

開催日: 2011年3月6日(日)
会場: 東京ミッドタウンホールA
内容: 武部聡志氏による学生が制作したミュージック・ビデオの公開コンペティション等を開催



●PAO WEEK

生駒芳子氏(ファッションジャーナリスト)、佐藤可士和氏(アートディレクター)、高橋智隆氏(ロボットクリエイター)、谷川智洋氏(パッチャルリアリティー研究者)、藤村忠寿氏(TVディレクター)、松岡正剛氏(編集工学者)によるプロジェクトの映像作品については、東京ミッドタウン会場で開催するPAO WEEKイベント(2011年3月22日~27日)で発表する予定であったが、東日本大震災の影響で中止となった。作品によっては、今後映画館での上映やテレビ放送等を予定。

市場開拓

日本発のコンテンツが相互に影響しあいながら連携し、メディア技術産業とも連携しつつあらたな可能性を創造し、広く海外にアピールしていくためのJAPAN国際コンテンツフェスティバル、映画関係者の交流の場となるレセプションなどを実施運営。

JAPAN国際コンテンツフェスティバル

VIPOは2007年度より経済産業省受託事業「JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)」の実行本部を運営している。4年目となる2010年度は、さらなる国際化を掲げ、年間を通して開催し、総来場者数は過去最高となる約130万人を動員した。(オフィシャルイベント、オリジナルイベント、パートナーイベントの総合計)

オフィシャルイベント

東京ゲームショウ 2010	9/16(木)～19(日)
日本ゲーム大賞 2010	9/16(木)～19(日)
KYOTO CMEX 2010	9/25(土)～12/12(日)
CEATEC JAPAN2010	10/5(火)～9(土)
Creative Market Tokyo 2010 Brand, Entertainment Contents / Trade & Licence	10/13(水)～15(金)
デジタルコンテンツEXPO 2010	10/14(木)～17(日)
第11回「東京発 日本ファッション・ウィーク」(JFW)	10/15(金)～24(日)
第37回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール	10/20(水)～27(水)
東京国際アニメ祭 2010 秋	10/22(金)～23(土)
第23回東京国際映画祭	10/23(土)～31(日)
第7回文化庁映画週間 Here & There	10/23(土)～30(土)
TIFFCOM 2010 Marketplace for Film & TV in Asia	10/25(月)～28(木)
国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2010	10/25(月)～28(木)
第7回東京国際ミュージックマーケット (TIMM)	10/25(月)～28(木)
第27回ATP賞テレビグランプリ 2010	10/29(金)
電子書籍・コミック サミット in 秋葉原	11/12(金)～14(日)
第4回 ロボット大賞	11/26(金)～28(日)



JAPAN INTERNATIONAL CONTENTS FESTIVAL



コ・フェスタ オフィシャルサイト
<http://www.cofesta.jp/>

グランドセレモニー

日程：2010年9月28日(火)
会場：帝国ホテル
内容：コンテンツ業界や省庁・団体・およびプレス関係者が一堂に会し交流を深めた。また、上海やパリでの海外展開の様子を報告。



劇的3時間SHOW —5人の国際映画監督が語る—

日程：2010年12月13日(月)～2011年3月30日(水)
会場：スパイラルホール、六本木ミッドタウン
内容：コンテンツ業界のトップで活躍するプロフェッショナルが、自身の成功につながった技術や経験、クリエイティビティ(創造性)やコンテンツ観などを3時間使い、自由に表現するライブトークイベント。
2010年は国際的な視点で映画作りに携わる国内外の著名な映画監督から、国際的に受け入れられる映画作りの方法などを学んだ。
出演：2010年12月13日(月) トラン・アン・ユン監督、2011年1月28日(金) 是枝裕和監督×ジュリエット・ピノシュ氏、2011年2月26日(土) ホウ・シャオシェン監督×蓮實重彦氏／一青窈氏 ※震災の影響で中止 2011年3月29日(火) ルーシー・ウォーカー監督、2011年3月30日(水) ウェイン・ワン監督



海外展開

2010年度は、上海万博という国際的な大規模イベントへの出展から、ブラジルでの調査事業など幅広く活動し、世界中で日本のコンテンツをアピールした。

コ・フェスタin上海

日程：2010年6月12日(土)～23日(水)
会場：中国 上海国際博覧会Aゾーン内 アジア広場、日本館イベントステージ
内容：平和を理念とし、若い世代から支持されているすばらしい日本の現代コンテンツを披露。アニメソングライブ、コスプレ、ファッションショー、J-POPライブ等を開催。また、連携イベントとして個別商談会を実施。



カンヌ映画祭2010

日程：2010年
5月12日(水)～23日(日)
会場：フランス カンヌ メイン会場：パレ・デュ・フェスティバル・エ・コングレ(ヌーヴォ・パレ)
内容：ユニジャパン、TIFF、TIFFCOMと共同出展し、コ・フェスタの紹介や映像デモ上映などのPR活動、ブースにてヒアリング、意見交換を実施。



第11回JAPAN EXPO

日程：2010年
7月1日(木)～4日(日)
会場：フランス パリ ノールヴィルパント展示会会場
内容：各省庁と連携してブース出展し、JAPANコンテンツを紹介。楽曲の試聴やマンガや雑誌の試読、アーティストのミニステージイベント、日本でのライブのUSTREAM生中継等を実施。連携イベントとしてビジネスセミナーや商談会を実施。



HYPER JAPAN London

日程：2010年
10月1日(金)～3日(日)
会場：イギリス
The Old Truman Brewery
内容：コ・フェスタの展示・紹介、人気コミック等の試読コーナー、アニメ・音楽等の映像をはじめとする最新の2D/3D映像上映、および英国等のコンテンツについての意見交換会を実施。



Asia Content & Entertainment Fair (ACE Fair)2010

日程：2010年9月9日(木)～12日(日)
会場：韓国 光州広域市 金大中 コンベンションセンター
内容：Creative Market Tokyoと共同ブース出展し、コ・フェスタの広報活動、会期中のカンファレンスへのスピーカーとしての参加、コンテンツ振興団体、企業にヒアリングを実施。



調査事業 ブラジル

日程：2011年3月 場所：ブラジル サンパウロ、リオ
内容：ブラジル人のライフスタイル、メディア環境、コンテンツ嗜好の基礎情報および日本コンテンツを提供する想定ターゲットの理解促進をするための市場調査、また日本コンテンツ業界の使節団を派遣しブラジル国内のコンテンツ業界についてBtoBヒアリング等を行い日本コンテンツ輸出振興策の調査を実施。

第15回釜山国際映画祭「ジャパンレセプション」

第15回釜山国際映画祭において今回で6回目となるジャパンレセプションが開催され、依田巽東京国際映画祭チェアマン、今回で退任されたキム・ドンホ釜山国際映画祭委員長、映画祭公式上映作品の関係者の中から李相日監督など、日韓をはじめ各国の映画関係者450名ほどが参加した。
開催日：2010年10月11日(月)
会場：釜山グランドホテル(韓国・釜山)
主催：文化庁、公益財団法人ユニジャパン、VIPO



その他

日本のコンテンツの情報を国内外に発信するためのポータルサイトの運営、海外コンテンツ機関とのセミナー、京都への映像製作を誘致等を目的とした京都フィルムコミッション推進事業、太秦でのインキュベートルームを中心とした事業等各種活動を展開。

コンテンツ・ポータルサイト運営協議会

VIPOは、本運営協議会より受託し、運営事務局を担当している。本サイトは、日本のコンテンツ情報を国内外に発信するWEBサイトとして2007年6月に開設された。2011年3月には、DB中心のサイトから海外に向け英語で日本コンテンツ情報を発信するサイトに刷新し、海外のコンテンツ関連事業者には、毎月メールマガジンの配信も実施した。



コンテンツ・ポータルサイト
「ジャパン・コンテンツ・ショーケース」
<http://www.japancontent.jp/>

日韓ビジネスキャンパス2010in東京

2008年より3回にわたり、プロデューサー向けの企画開発ワークショップを行ってきたが、今回は、日韓両国の製作・配給・興行・ロケーション・ポストプロダクションのプレゼンテーションとオープンセミナーを中心に実施した。

開催期間：2010年9月2日(木)～5日(日)
主催：KOFIC 共催：経済産業省/UNIJAPAN/VIPO
プログラム：1.日本側のプレゼンテーション
①ヒット作品のケーススタディー ②製作・配給・興行解説
③ロケーション・サービス
2.韓国側のプレゼンテーション
①韓国のポストプロダクション会社のプレゼンテーション
②日本の映画関係者との個別ミーティング
3.韓国プロデューサーの劇場、撮影所視察
参加者：韓国プロデューサー5名、日本プレゼンター3名、韓国ポストプロダクション会社5社、日本映画関係者約50名

KYOTO

VIPO京都 フィルムコミッション推進事業

【2010年活動概要】京都・太秦にある東映・松竹両撮影所、また周辺に立地する映画産業の集積を活用し、国内外の映画や映像制作などの誘致活動を推進。また、映像を含む様々なコンテンツ人材育成を進め、「コンテンツ産業のまち・京都」を国内外に発信。具体的な活動内容としては、京都府域での撮影に関するバックアップ等を行うこと、人材育成プログラムの企画、開催、協力等があげられる。

京都映画・映像企画市



映画・映像作家を目指す若者を対象に時代劇を中心とした作品企画を募集し、業界で活躍する関係者が評価を行った。
開催日程：2010年12月10日(金)
会場：東映京都撮影所 試写室
主催：京都府、VIPO京都事務所
共催：太秦フェスティバル実行委員会

韓国調査事業



韓国の映像制作環境を調査し、京都への撮影誘致のための情報収集および既存のネットワークを活かした新たな人脈構築等を行った。
日程：2011年3月8日(火)～11日(金)
場所：韓国 ソウル特別市、京畿道富川市

香港フィルマート出展



京都府全体の映画・映像関連の資源、設備等を海外の映像製作者等にPRすることを目的としてブースを出展した。
日程：2011年3月21日(月)～24日(木)
会場：香港コンベンション&エキシビジョンセンター

京都太秦クリエイター支援拠点(UZU)



【UZU事業概要】映画・コンテンツ関係のクリエイターの支援を目的とし、2010年11月1日に開所したインキュベートルーム。京都・太秦に長年培われてきた映画・映像産業を基盤に、人と人とのネットワークの構築をめざし、様々な支援施策を展開することにより、太秦に映像・コンテンツ産業の集積を図る。

支援メニュー：創作活動スペースの提供/ネットワークづくり/ハンズオン支援/スキル向上 設備概要：賃貸ブース(120×72.4cm)×8ブース、複合機、無線LAN、多目的スペース使用可 住所：〒616-8167 京都府京都市右京区太秦多敷町45-19 ヤマトビル2階
電話&FAX：075-432-7340 Email：uzumasa@vipo.or.jp

シナリオアナリスト基礎講座
～プロデューサー視点でのシナリオ分析の黄金則

ストーリー・シナリオ分析に関する豊富な研究実績を持つ東京工科大学の協力を得て、コンテンツ産業関係者、プロデューサーやライターを目指す学生や若手クリエイターを対象に、シナリオの合理的かつ実証的な分析方法・作成方法を紹介することを目的に開催。

開催日時：2011年3月24日(木)、25日(金)
開催場所：松竹撮影所内 立命館松竹スタジオ教室
主催：京都太秦クリエイター支援拠点



平成22年度幹事理事会・理事会

日時：2010年6月3日(木) 午後3時～
会場：コートヤード・マリOTT 銀座東武ホテル 地下1階 ロジエドル(東京都中央区)
議案：1.総会に付議すべき事項 第1号議案 平成21年度の事業報告の件、第2号議案 平成21年度の会計報告の件、第3号議案 平成22年度の事業計画の件、第4号議案 平成22年度の予算案の件、第5号議案 定款変更の件、第6号議案 役員改選の件、第7号議案 平成22年度の政策検討委員会運営の件、第8号議案 一般管理費の件、第9号議案 認定NPO法人申請の件 2.幹事理事、理事長及び副理事長指名
※理事会に先立ち幹事理事会を同日午後2時より開催

平成22年度通常総会

日時：2010年6月16日(水) 午後3時～
会場：銀座フェニックスプラザ 2階「フェニックスホール」(大)(東京都中央区)
議案：【決議事項】1. 第1号議案 平成21年度の事業報告の件 第2号議案 平成21年度の会計報告の件、第3号議案 平成22年度の事業計画の件、第4号議案 平成22年度の予算案の件、第5号議案 定款変更の件、第6号議案 役員改選の件、第7号議案 平成22年度の政策検討委員会運営の件、第8号議案 一般管理費の件、第9号議案 認定NPO法人申請の件

【理事会】
日時：2010年6月16日(水) 午後3時48分～
会場：銀座フェニックスプラザ 2階「フェニックスホール」(小)
議案：第1号議案 理事長選任の件、第2号議案 副理事長選任の件、第3号議案 幹事理事選任の件
本会にて、新理事長として、松谷孝征副理事長(一般社団法人日本動画協会 名誉理事、株式会社手塚プロダクション 代表取締役社長)、副理事長として、早河洋理事(株式会社テレビ朝日 代表取締役社長)が選任された。迫本前理事長(松竹株式会社代表取締役社長)は名誉理事に就任。
※理事会終了後、松谷理事長就任にあたり、記者会見を午後4時10分より同会場にて開催

記者会見での松谷新理事長就任にあたる挨拶
「このような重要な事業に携わる団体の理事長に就任し、責任の重大さに身の引き締まる思いですが、皆様からのご推薦でございますので、皆様のご協力を頂き、この責任を果たしていきたいと考えております」

総会終了後午後3時50分よりミニセミナー「パナソニック3Dの取り組み」(講師：パナソニック株式会社高臨場感AV開発センター所長 宮井宏氏)、懇親会を同プラザ3F会議室にて午後4時30分より開催



平成22年度幹事理事会・理事会

日時：2010年12月8日(水) 午後4時30分～
会場：銀座フェニックスプラザ 紙パルプ会館 3階特別会議室
内容：【報告事項】1.平成22年度事業の進捗報告 2.NPO申請報告
※理事会に先立ち幹事理事会を同日午後3時より同会館会議室6にて開催

平成22年度事業報告(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

事業の経過
平成22年6月16日に開催した、平成22年度通常総会で承認された今年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成支援、内外の市場開拓等に関する事業を実施した。具体的には、今年4年目となるJAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ2010)の運営や若手映画作家の育成を目指す「若手映画作家育成プロジェクト(ndjc2010)」、コンテンツ産業を目指す学生の為の就職セミナー等を、関係省庁、団体、教育機関と連携し取り組んだ。

主な事業の実施状況(※項目抜粋)

- (1) 人材育成事業
- ①インターンシップの実施(自主事業)
 - ②短編映画作品製作による若手映画作家の育成(文化庁1億2,000万円)
 - ③コンテンツ産業を目指す学生に対する就職セミナーの実施(自主事業)
 - ④人材育成基盤セミナーの実施(自主事業)

- (2) 国内・国際市場整備
- ①JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ2010)の運営。平成22年度コンテンツ国際取引市場強化事業(経済産業省3億円)
 - ②コ・フェスタPAO(若手クリエイター映像制作、発信事業)の実施。平成22年度コンテンツ産業人材発掘育成事業(経済産業省4億円)
 - ③コンテンツポータルサイトの運営(コンテンツポータルサイト運営協議会費910万円)
 - ④釜山国際映画祭でのジャパンレセプション(文化庁150万円)

- (3) 普及・啓発
- ①歴史的音盤SP盤アーカイブの実施。(歴史的音盤アーカイブ推進協議会)

- (4) 海外の同様の機関との連携・交流に係る事業
- ①韓国KOCCAとの業務提携 ②韓国KOFICとの業務提携 ③韓国JCIAとの業務提携

- (5) その他の事業
- ①AFI(American Film Institute)への留学斡旋の実施
 - ②VIPOホームページの運営 ③「VIPO年間活動報告書2009」制作 ④「VIPO事業概要」の改訂版制作

京都事業
①(a)京都フィルムコミッション推進事業(京都府1,290万円)(b)京都映画・映像企画市(京都府90万円)(c)京都太秦クリエイター支援拠点サポート事業(京都府750万円) ②会員 ③通常総会、理事会、幹事理事会の開催 ④政策検討委員会 本会、各分科会
※全文は下記ホームページに随時掲載
<http://www.vipo.or.jp/ja/about/report.php>

VIPO公式ホームページでは当機構がミッションとして掲げるゲーム、アニメーション、映画、放送、音楽などのコンテンツ産業に関わるキーパーソンへのインタビューを実施。2010年度

は主に、アジア諸国で目覚ましい躍進を遂げる韓国コンテンツ業界に焦点を当て、韓国コンテンツ関係者に話を伺った。

※情報・内容については基本的にはHP掲載時のもの。

韓国コンテンツ振興院
(KOREA CREATIVE CONTENT AGENCY: KOCCA) 日本事務所
金泳徳所長

1995年～上智大学文学研究科新聞学専攻博士課程修了、2000年～韓国放送映像産業振興院 研究員、2009年5月～韓国コンテンツ振興院 首席研究員、2010年7月～現職・著書に「TVドラマのメッセージ」(韓国語、共訳)、日本大衆文化と日韓関係(日本語、共著)等



韓国文化コンテンツの日本での安定供給にはどういった要因が大きいと思いますか？

過程において一番の大きな役割を果たしているのは、韓国の作り手だと思えますね。コンテンツの作り手がとてもいい作品を作り続け、それを適切に日本の市場に供給し、それを視て日本のたくさんの方々が大変感動を覚えたり、面白く

楽しく見て頂いたりしたお陰で、こんな形にまで広がったと思っています。(省略)

また、放送メディアやネットの役割も非常に大きいと思います。供給とニーズの真ん中に立って積極的に韓流ドラマなどを取り上げてくれた様々なメディアの存在は大きいです。(省略) NHK……フジテレビ等でいろんな方に視て頂いて、そこからもっと視たいという人は有料メディアに加入するんですね。

その意味では、有料チャンネル事業も大きく貢献していると思えますね。(省略)特に、K-POPは定期編成の放送番組という形だけでなくネットや携帯などのプラットフォームで安定的に日本の皆様に消費されています。

しかし、今の韓流ブームで日本の方によく誤解されるのが、韓国政府が支援したからとか政府の政策によるものだ、という点です。今の韓流ブームは国が音頭をとって引き起こしたのではなく、民間主導で日本に売り出し、日本の皆様に受け入れて頂いて、日本の市場をブレイクスルーしたわけですね。国や振興院は、市場に直接関わるのではなく、折角のブームをより拡大、持続、強化できるよう振興財源や資源を投入し、あくまでも後方でサポートしているんですね。

(省略)

2012年に韓国コンテンツ振興院が最も注力する活動について教えてください。

「大韓民国新話創造プロジェクト」により、キラーコンテンツを発掘するプロジェクトにて作られたコンテンツをグローバル市場、アメリカ、中国市場に戦略的に広めていくことです。このプロジェクトは斬新で興味深いストーリーを発掘し、これをドラマ・映画・アニメ・キャラクター・ゲームなど文化商品に進化させよう、というものです。強調しているのは今までになかった新しいストーリーを映像化し、韓国版「ハリポッター」として、経済的波及効果がある作品にすることです。(省略)

国家予算を125億ウォン(約10億円)を超える資金投入し、韓国コンテンツ振興院がコンテンツ企画から製作、流通まで担当し、バックアップするシステムを構築しております。

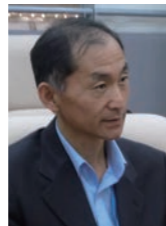
(2010年12月取材)

Asia Content&Entertainment Fair (Ace Fair)
咸眞淑事務局長 (Alice Ham:Secretariat of ACE Fair/Chief)



私の子どもの頃は、韓国の社会・経済情勢によりいろいろなことをあきらめなければいけませんでした。(省略)大人はいい刺激を子どもたちに与えてあげようであればいいと思います。ACE FAIRにより、子どもたちが世界中のコンテンツに触れて刺激を受け、どんな職業に就くにしても創造性豊かな思考を養ってほしい、また、国を支えていく土台の1つとなる文化の重要性について気付いてほしいと思います。

光州情報・文化産業振興院
(Gwangju Information and Culture Industry Promotion agency : GITCT)
李相吉院長 (Sang-Gil LEE President&CEO)



日本や中国というのは経済大国で豊かな国です。韓国は経済的には日本と中国に及びませんが、自信をもっていえるのは韓国には「人」という一番重要な力があります。(省略)政府から政策支援をするというのがありますが、国民が、国に愛情をもって働いており、国の経済を盛り立てるためにすべきことをしなければならぬという意識、危機感が、文化コンテンツ産業が成長した大きな要因の1つではないかと思えます。

光州情報・文化産業振興院
(Gwangju Information and Culture Industry Promotion agency : GITCT)
金恩鈴(Eun-Young,Kim)氏 (IT-CT Industry Department/Marketing Manager)



GITCTの使命として光州発のコンテンツのマーケットを開拓し、流通支援をするというのがありますが、積極的にフランス・アヌシーやカナダの見本市や展示会での活動をしていった中、今年、GITCTはフランスの2番目のクラスターであるIMAGINOVEとMOUを結びました。アニメを中心とするコンテンツの共同製作について協力していこうという方向のものです。これは具体的なコンテンツを提示しての広報活動の成果です。

韓国文化産業専門大学院 教授
金時範 (Si-Bum KIM) 氏



OSMU (One Source Multi Use)のライセンス管理されたビジネスモデルをアニメや映画を作る前に描いておくというのが今後さらに当たり前に重要になっていくでしょう。OSMUにはストラテジーが必要です。私が欧米や日本・中国とのビジネスで培った経験と知識を導入し、ストラテジーを描ける、韓国コンテンツ産業にとって素晴らしい人材、主にビジネスプロデューサー、マーケティングを世に送り出していきたいと思っています。

FIX Korea (ソフトウェア開発会社) CEO
Incho Choi 氏



韓国人は作り直すのが大好きで、新しいものがあるのもすぐに新しいものを求める傾向にあります。(省略)日本やハリウッドのOEMとして技術力やアイデア力を蓄積してきたので、コンテンツに関する韓国発の新しいものをソフトもハードも世界に向けて発信させていくのではないかと思います。また、世界に発信していくためのプラットフォームの確保も視野に入れて、世界の国々との共同プロジェクトも増えていこうと思っています。

(2010年9月取材)

VIPO年間活動スケジュール (2010年度)

2010年	5月 ●	2010年度インターンシップ受け入れ先企業・学生募集
	●26日	JAPAN国際コンテンツフェスティバル 2010 (コ・フェスタ) 開催決定
	6月 ● 1日～7月2日	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト 作家の公募
	● 3日	平成22年度幹事理事会・理事会
	●16日	平成22年度通常総会
	●18日	VIPO×AFI公式ホームページ「AFI.com×VIPO」開設
	8月 ● 7日～21日	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト ワークショップを実施
	9月 ● 2日～5日	日韓ビジネスキャンパス2010 in 東京
	●16日～12月12日	JAPAN国際コンテンツフェスティバル 2010開催
	●26日、10月9日・10日	メディア・映像業界就職セミナー
● 9月～2011年1月	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト 製作実地研修	
10月 ● 7日・14日・21日 11月4日・11日・18日	「シナリオアナリスト養成セミナー」[キャラクターメイキング&アナリスト養成セミナー](2010年10月期)	
●11日	第15回釜山国際映画祭「ジャパンレセプション」	
●12日～11月5日	AFI CONSERVATORY 2010 - 2011 留学推薦者募集	
●20日・12月7日 2011年1月19日・3月6日	コ・フェスタPAO	
11月 ● 1日	京都太秦クリエイター支援拠点 (UZU) 開所	
12月 ● 8日	平成22年度幹事理事会・理事会	
●10日	京都映画・映像企画市	
2011年	2月～3月	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト 合評上映会・講評会
	3月 ●24日・25日	シナリオアナリスト基礎講座～プロデューサー視点でのシナリオ分析の黄金則
	● 通 年	政策検討委員会

VIPO会員社

【法人会員】

株式会社秋田放送
株式会社アサツデー・ケイ
アップルジャパン株式会社
アメリカン・モーション・ピクチャー・
アソシエーション・オブ・ジャパン
伊藤忠商事株式会社
株式会社IMAGICA
一般社団法人映画産業団体連合会
映画専門大学院大学
社団法人衛星放送協会
公益社団法人映像文化製作者連盟
エイベックス・エンタテインメント株式会社
株式会社エスピーオー
株式会社NHK エンタープライズ
大蔵映画株式会社
社団法人外国映画輸入配給協会
株式会社角川書店 (旧角川映画株式会社)
株式会社角川書店
株式会社カプコン
関西テレビ放送株式会社
株式会社キネマ旬報社
株式会社木下工務店
ギャガ株式会社
キヤノン株式会社
キングレコード株式会社
株式会社クオラス
株式会社クリーク・アンド・リバー社
コーエー テクモホールディングス株式会社
コダック株式会社
駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部
日本コロムビア株式会社
コンテンツゲート株式会社
一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会
埼玉県彰の国ビジュアルプラザ
松竹株式会社
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス
住友商事株式会社
セガサミーホールディングス株式会社
全国興行生活衛生同業組合連合会
社団法人全日本テレビ番組製作社連盟
ソニー PCL 株式会社
株式会社第一興商
株式会社第一通信社
高津装飾美術株式会社
株式会社タカラトミー
株式会社円谷プロダクション
株式会社ティーワイリミテッド
株式会社テイチクエンタテインメント
株式会社デジタルSKIP ステーション
株式会社手塚プロダクション
株式会社テレビ朝日
テレビ大阪株式会社
株式会社テレビ東京
株式会社電通
東映株式会社
東映アニメーション株式会社

株式会社東京現像所
東京テアトル株式会社
株式会社TBSテレビ
東宝株式会社
東宝東和株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ
株式会社ドリーミュージック
中日本興業株式会社
名古屋テレビ放送株式会社
日活株式会社
株式会社日経BP
協同組合日本映画製作者協会
一般社団法人日本映画製作者連盟
社団法人日本映画テレビ技術協会
社団法人日本映像ソフト協会
日本テレビ放送網株式会社
一般社団法人日本動画協会
社団法人日本民間放送連盟
一般社団法人日本レコード協会
株式会社博報堂
株式会社バップ
びあ株式会社
株式会社ヒューマックスシネマ
株式会社フォーライフミュージックエンタテイメント
株式会社フジテレビジョン
富士フイルム株式会社
ブロードメディア・スタジオ株式会社
報映産業株式会社
ホクエツ印刷株式会社
株式会社ポニーキャニオン
株式会社ホリプロ
三井物産株式会社
三菱商事株式会社
武蔵野興業株式会社
ユニバーサル ミュージック合同会社
吉本興業株式会社
琉球放送株式会社
株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
株式会社WOWOW

【賛助会員】

ウシオ電機株式会社
片倉工業株式会社
株式会社きんでん東京本社
スカパー JSAT 株式会社
ソニー株式会社
高砂熱学工業株式会社
株式会社東芝
トヨタ自動車株式会社
日本電信電話株式会社
パナソニック株式会社
株式会社みずほコーポレート銀行
三井不動産株式会社
森ビル株式会社

※個人会員制度有(五十音順) 2011年3月31日付

特定非営利活動法人(NPO法人) 映像産業振興機構

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8F
TEL:03-3543-7531 FAX:03-3543-7533 <http://www.vipo.or.jp/>

京都事務所

〒616-8163 京都府京都市右京区太秦西蜂岡町9
TEL&FAX: 075-862-8091

編集・発行: NPO法人 映像産業振興機構 2011年6月1日発行